

相愛大学学生生活実態調査 報告書

相愛大学学生委員会

目次

はじめに	1
1. 基本項目	1
2. 学修・音楽練習	2
3. クラブ・サークル・ボランティア	4
4. アルバイト・奨学金	5
5. 進路・就職活動	7
6.IT 機器・パソコン	8
7. 食堂	9
8. 悩みと相談	10
9. 施設	12
10. 大学の満足度	13
11. 現在、対応が進んでいる項目	15

はじめに

「相愛大学学生生活実態調査」は、相愛大学に所属する学生を対象に、学内外での生活実態を把握し、大学の改革・改善のための基礎的データを得ることを目的におこなわれた調査である。本調査は、平成 24 年度の教育改革経費推進事業としておこなったもので、本学では初となる全学年・全学部を対象にした広範囲な分野の調査となった。

調査は平成 24 年 11 月～12 月に実施された。調査対象は、相愛大学に所属する全学生 1274 人とし、回答は 1098 人 (回収率 86.2%) から得られた。回答方法は、無記名・自記式のマークシート形式 (一部、自由回答を含む) で、教員・助手が配布・回収して実施された。

調査に協力して貴重な意見を聞かせてくれた学生のみなさん、ならびに調査実施にご協力いただいた教職員の皆様に感謝の意を表したい。

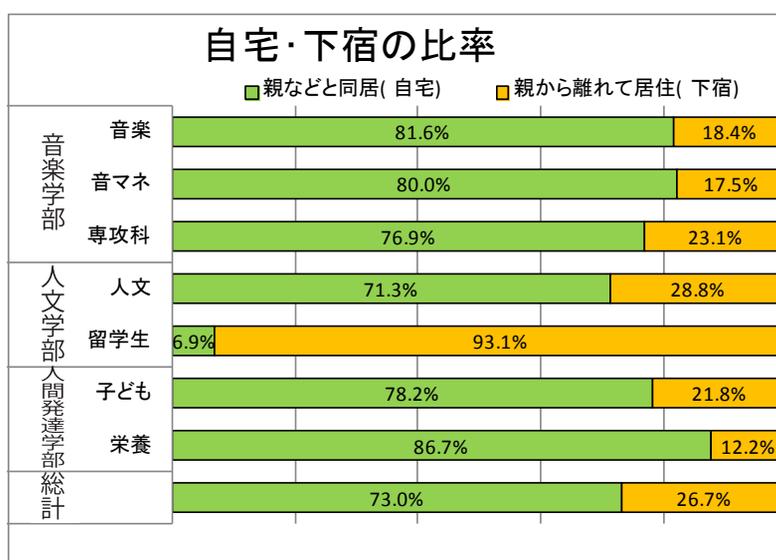
1. 基本項目

今回、調査に回答してくれた学生数の合計は 1098 人であった。性別では 24.8% が男子、75.2% が女子となっている。ただし学部学科間でばらつきがあり、人文学部の

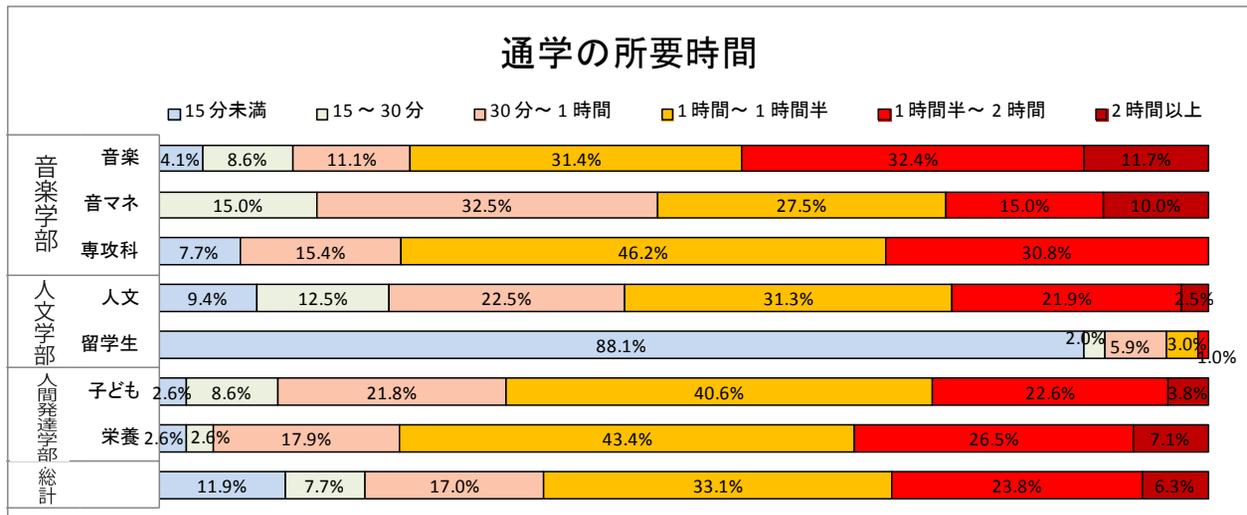
学部	学科	男		女		学科計	合計
音楽学部	音楽学科	40	12.7%	275	87.3%	315	368
	音楽マネジメント	7	17.5%	33	82.5%	40	
	音楽専攻科	3	23.1%	10	76.9%	13	
人文学部	人文学科	73	45.6%	87	54.4%	160	261
	留学生	23	22.8%	78	77.2%	101	
人間発達学部	子ども発達	100	37.6%	166	62.4%	266	462
	発達栄養	22	11.2%	174	88.8%	196	
総計		272		826			1098

45.6%、子ども発達学科の 37.6% は男子が占めている。

日本私立大学連盟が全国の 122 大学でおこなった大規模な調査「第 13 回 学生生活実態調査」(以下、私大連盟調査) の全国的な平均値は男子 51.8%、女子 47.6% となっており、本学の女子の比率が大変高くなっていることがわかる。



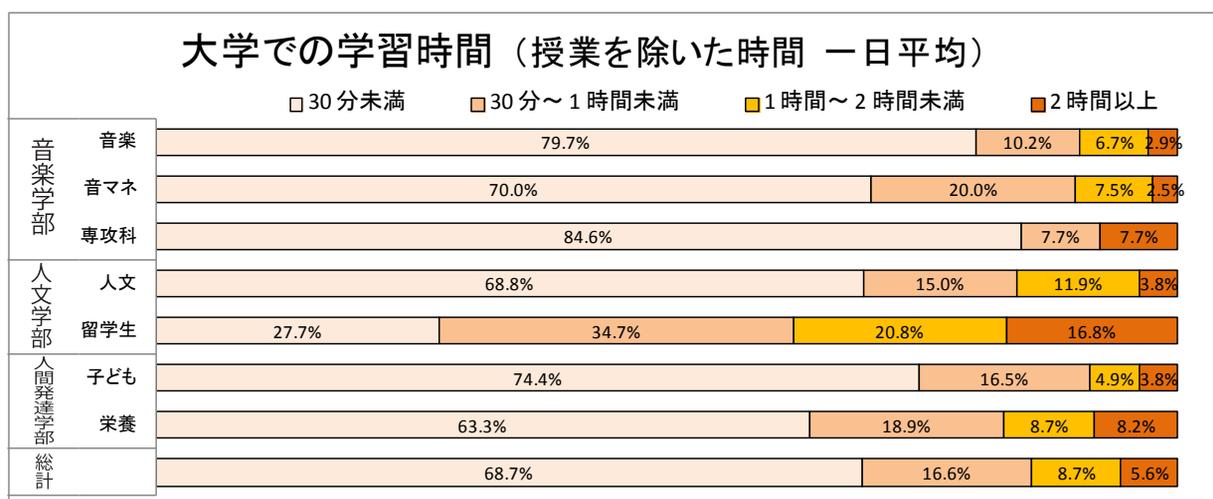
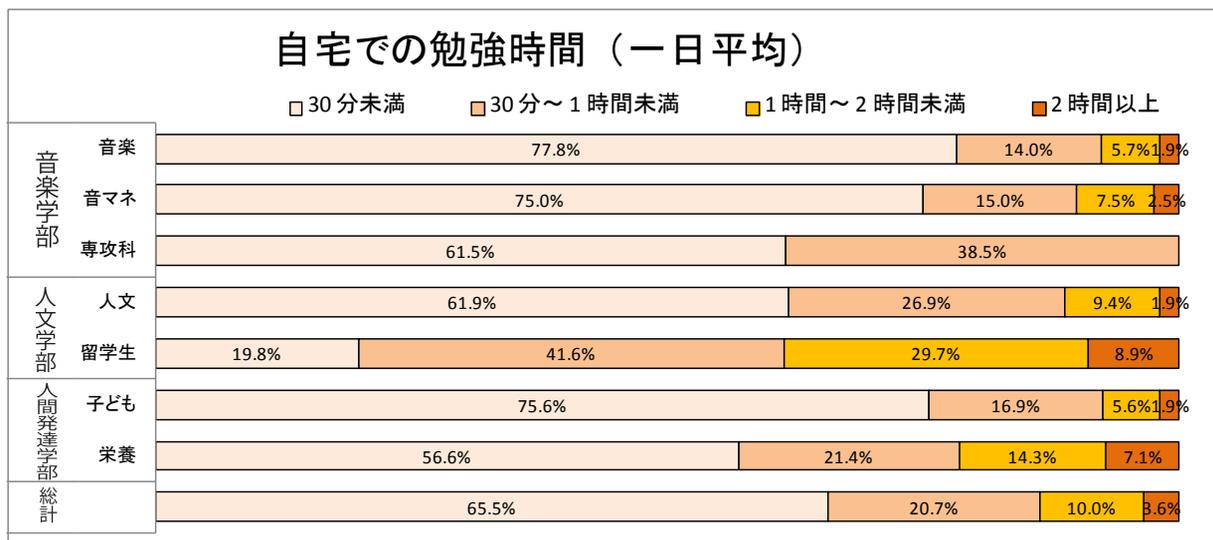
下宿をしている学生の割合は、留学生を除くとほぼ 20% であった。私大連盟調査の全国平均では自宅 61.4%、自宅外 37.5% となっており、比較すると本学は下宿生の比率が低めとわかる。通学時間は、片道平均 1 時間 10 分で、1 時間以上をかけて通う学生の合計が約 60% となっている。私大連盟調査の平均値では、片道平均 45.5 分となっており、本学では通学時間が長めとなっていることが



わかる。2時間以上の通学者は特に音楽学部で多くなっている。

出身高校の所在地では、大阪市内が28%、堺市3%、その他の大阪府下が20%となっており、大阪府の合計で在学生のほぼ半数にのぼる。以下、近畿圏では、兵庫県、奈良県、京都府、和歌山県、滋賀県の順となっている。

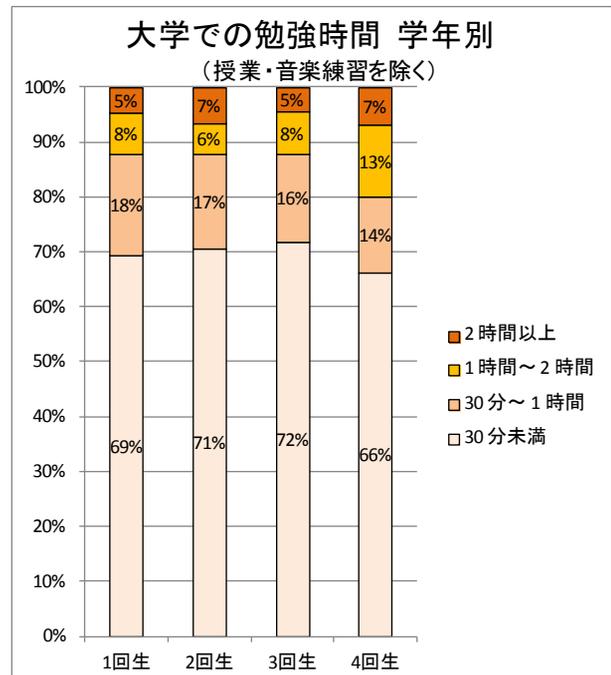
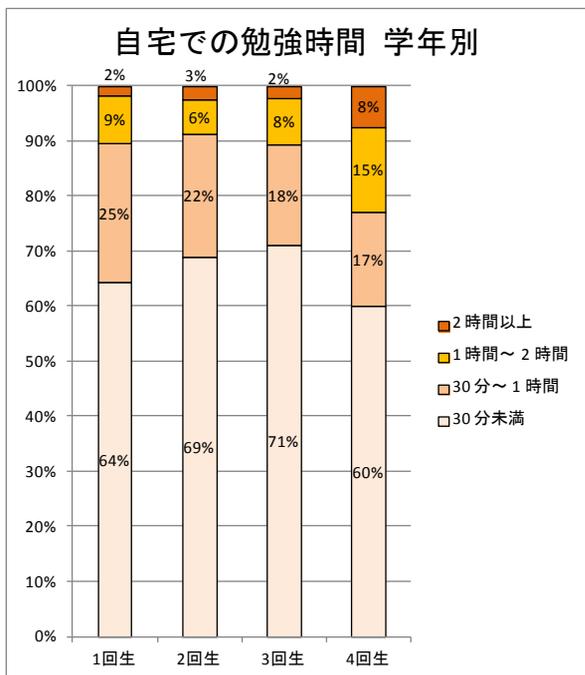
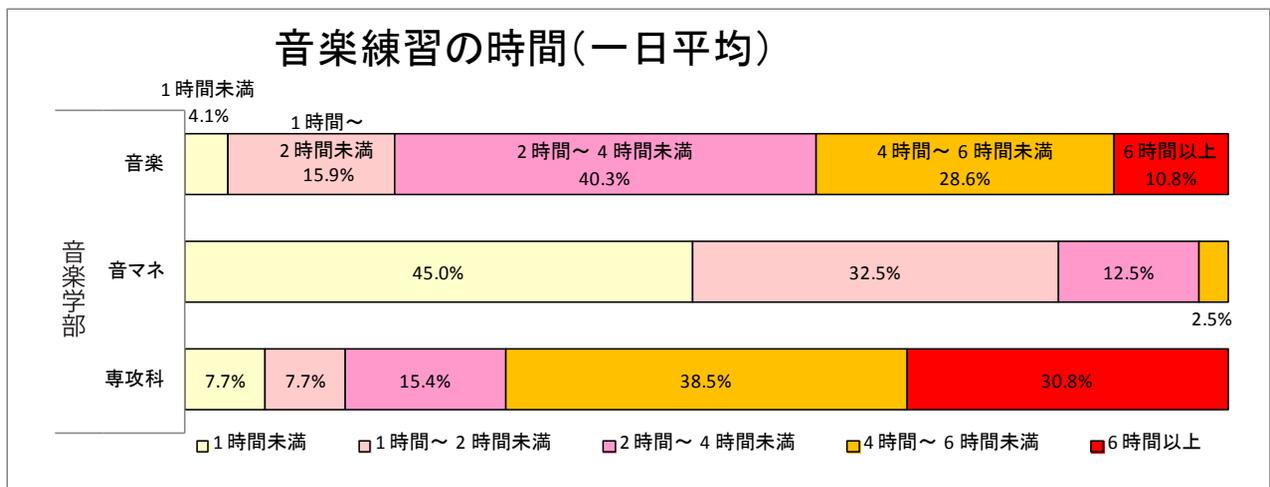
2. 学修・音楽練習



自宅での勉強時間は、1日平均30分未満と答えた学生が全体の65%以上を占めており、平均では34分となっている。大学での授業以外の学習時間についても同様に68%が30分未満、平均値で34分となっている。全体的として自主的な学習に積極的ではない傾向が見られる。

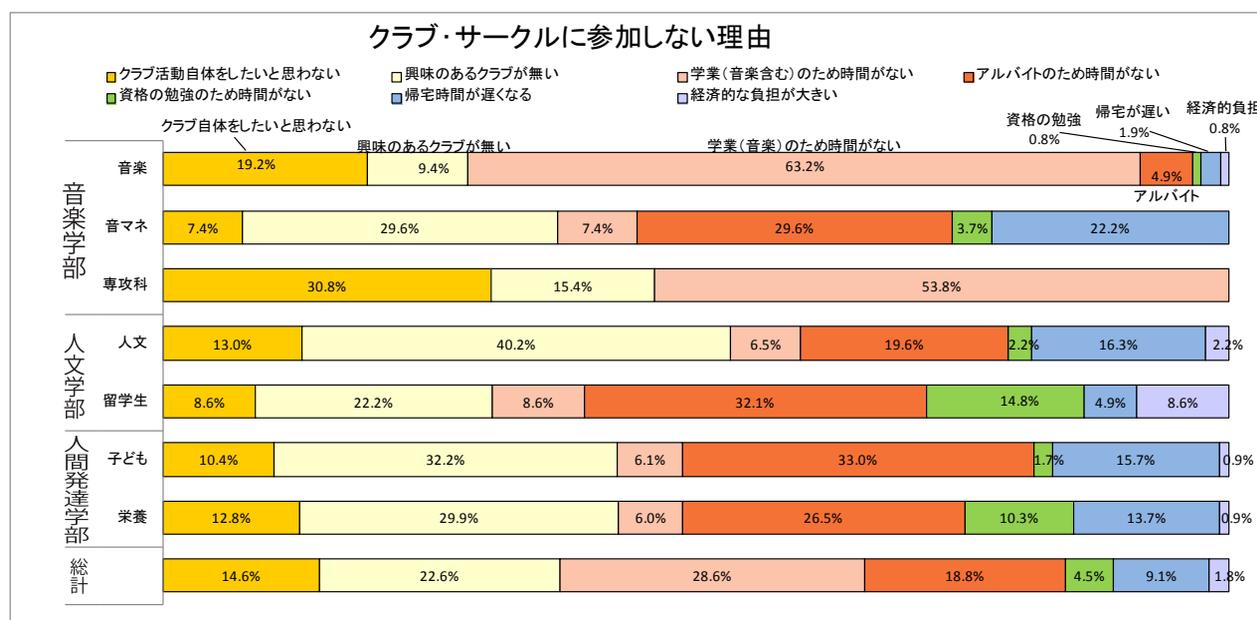
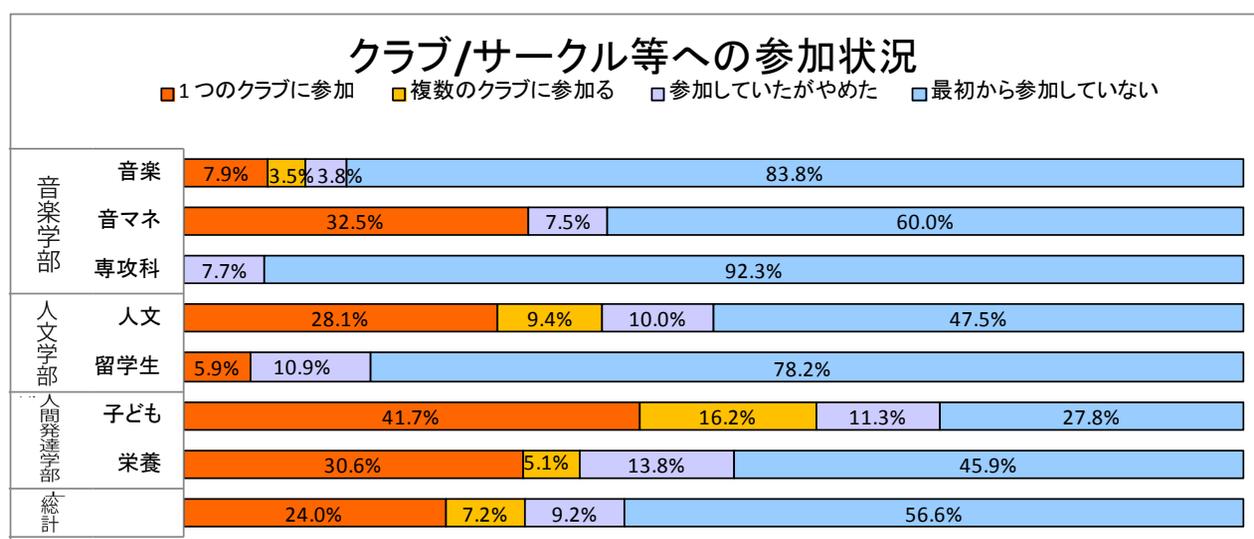
ただし、音楽学部の学生は大学・自宅での勉強時間が少ない傾向にあるが、これは音楽学科の学生の授業時間以外の一日のほとんどの時間を練習時間に当てられているためである。音楽の練習時間は、音楽学科で2時間以上の合計が80%、音楽マネジメント学科でも1時間以上が約半数と、非常に多くの時間を音楽練習に費やしており、自主的な学びは大変活発であることがわかる。

学習時間を、入学年度別（学年別）に分けて集計すると、学年間の顕著な差が見られなかった。2011年以降に入学した1,2回生は、履修スケジュールにゆとりをもたせた、「履修登録のキャップ制」が導入されているが、勉強時間について3,4回生との違いが、その効果が表れていない。これはキャップ制度の主たる目的である「自主的な学習時間の確保」が進展していないということになる。



3. クラブ・サークル・ボランティア

クラブに参加している学生の割合(クラブ参加率)は、全体で31.2%となっている。私大連盟調査の全国平均では、ボランティアを含めた正課外活動への参加率が69.5%となっていることと比較すると、かなり低めの数値となっている。ただし学部学科間での差が大きく、子ども発達学科は57.9%、音楽学科が11.4%となっている。音楽学科で参加率が低い背景には、授業時間以外のほとんどが練習時間に当てられるため、クラブ・サークルへの参加は難しいという現状がある。一方、人文学部は留学生を除いた参加率が35%と、学内平均を上回っているが、カリキュラム上の制限が他学科より少なく、より一層の参加を望める余地がある。学問分野が就職に直結しにくい学部だからこそ、社会人力向上のために、ぜひクラブ/サークルへの参加を促していく必要があると考えられる。クラブの参加状況と進路に向けた活動への関連性は「進路・就職活動」で述べることにする。



クラブ・サークルの種類による内訳では体育系が40%、文科系が40%、残りが学生会・大学祭実行委員会などとなっている。

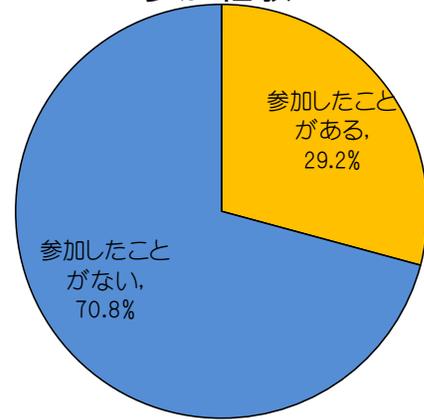
ボランティアに関しては、全体の29%の学生に「学内でのボランティア経験」があった。学科の

比較では、音楽学科が低め、子ども発達学科・人文学部が高めとなった。ただし音楽学部ではボランティア活動に準ずる演奏依頼が多方面からあるものの、学生自身は、聴衆の前で演奏することが自分の勉強と考えており、これらの演奏をボランティアとして認識していないことがほとんどである。

ボランティアの定義が明確に学生たちに認識されれば、ボランティア経験ありという回答が増加すると思われる。

また今後のボランティアへの意思是、「大学内でボランティアをしたい」という回答が30%弱なのに対して、「大学外でしてみたい」が50%近くとなっており、大学内でのボランティア参加意欲が低めとなっている。

大学内で企画されるボランティアへの参加経験

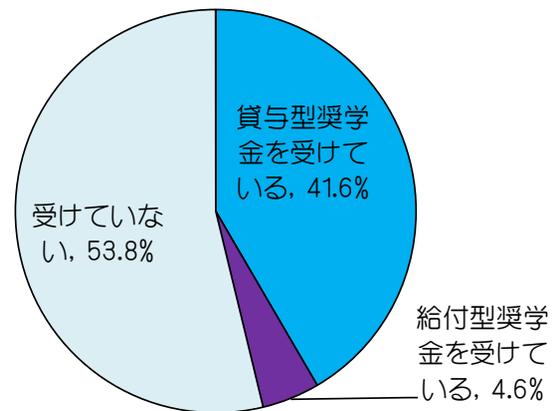


4. アルバイト・奨学金

奨学金については、学生全体の45%が何らかの奨学金を受けていることが明らかになった。また、受けていない学生の約33%の学生は、奨学金を受けたいという意思がありながら、「条件が合わない」または「どうやっていいかわからない」という理由で断念していることが判明した。

アルバイトは全体の73%の学生がおこなっている。私学連盟調査では平均67.2%となっており、本学も平均に近い状況となっている。職種別に見ると、飲食業が全体の過半数を占め、次いで販売業が多く

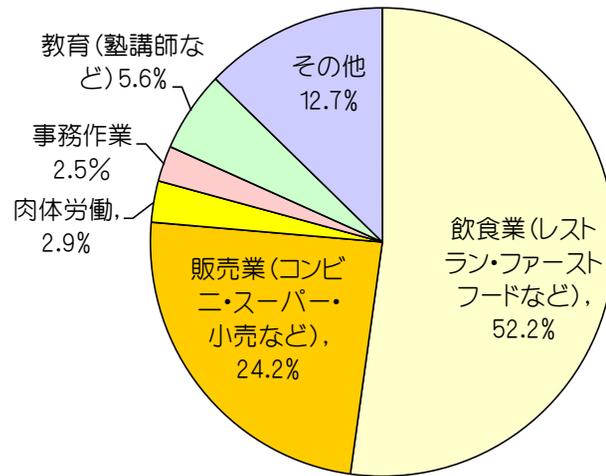
奨学金の受給状況



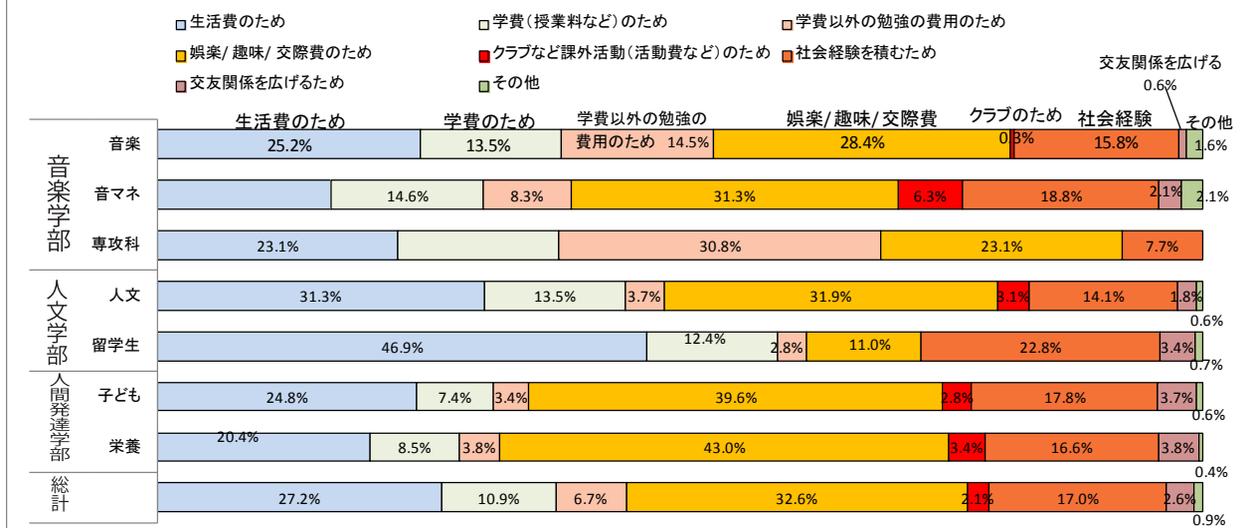
アルバイトをしている学生の割合

		■ アルバイトをしている	□ アルバイトをしていない
音楽学部	音楽	63.9%	36.1%
	音マネ	72.5%	27.5%
	専攻科	75.0%	25.0%
人文学部	人文	66.7%	33.3%
	留学生	92.9%	7.1%
人間発達学部	子ども	78.8%	21.2%
	栄養	74.4%	25.6%
総計		72.9%	27.1%

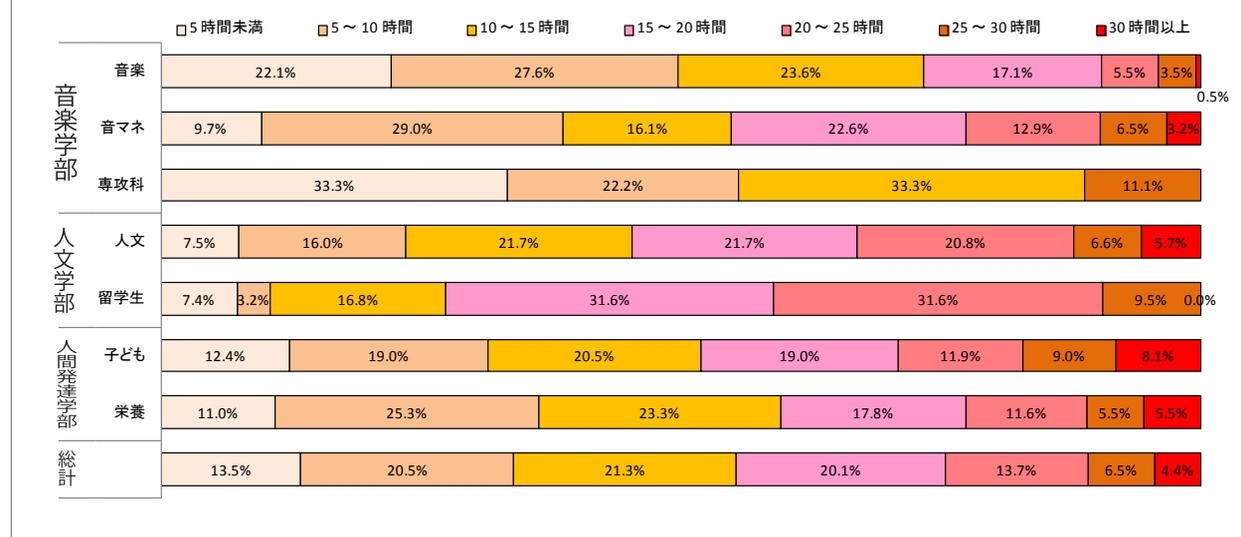
アルバイトの職種



アルバイトをしている理由



アルバイトをしている人の1週間の平均的な労働時間



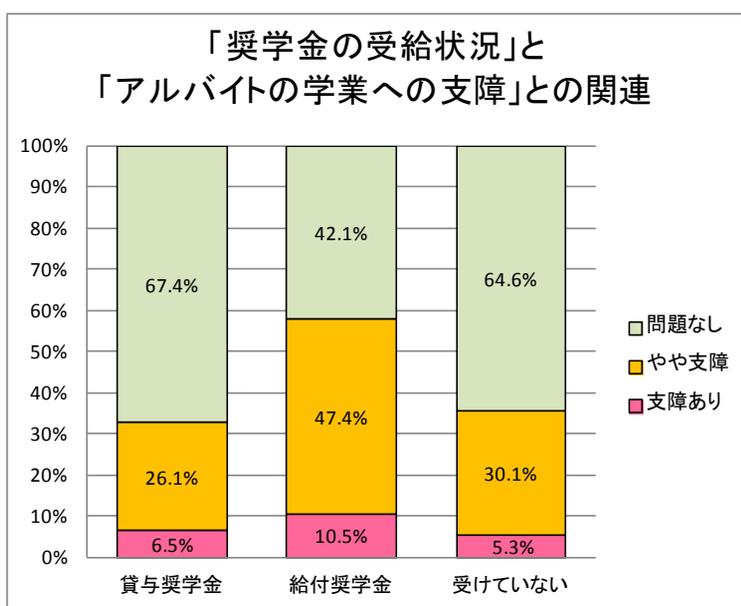
見られた。学部による大きな違いは見られていない。

アルバイトの理由は、多い順に、娯楽・趣味の費用、生活費、次いで社会経験となっている。学部ごとの傾向を見ると、音楽学部が「学費以外の勉強費用のため」という回答が約15%あり、3%前後の他学部と比較して、多くなっていた。音楽学部では、弦、弓の張替え、リード等の消耗品の購入や、楽譜、CD、演奏会チケット等など音楽の勉強や演奏勉強のための出費が比較的多くなるためと思われる。また、人間発達学部では「娯楽趣味のため」という回答が比較的多く、人文学部・留学生は「生活費のため」という回答が多く見られた。

「奨学金受給の有無」と「アルバイトによる学業への支障」の関係を見ると、受けていない学生と貸与型奨学金の学生については、大きな違いはなく、平均的な数値だったが、給付型奨学金は、支障ありと答えたのが60%近くに至った。給付型を受ける学生は、経済的な状況が厳しく、奨学金の支給額のみでは不十分でないため、さらなるアルバイトが必要となると考えられる。

5. 進路・就職活動

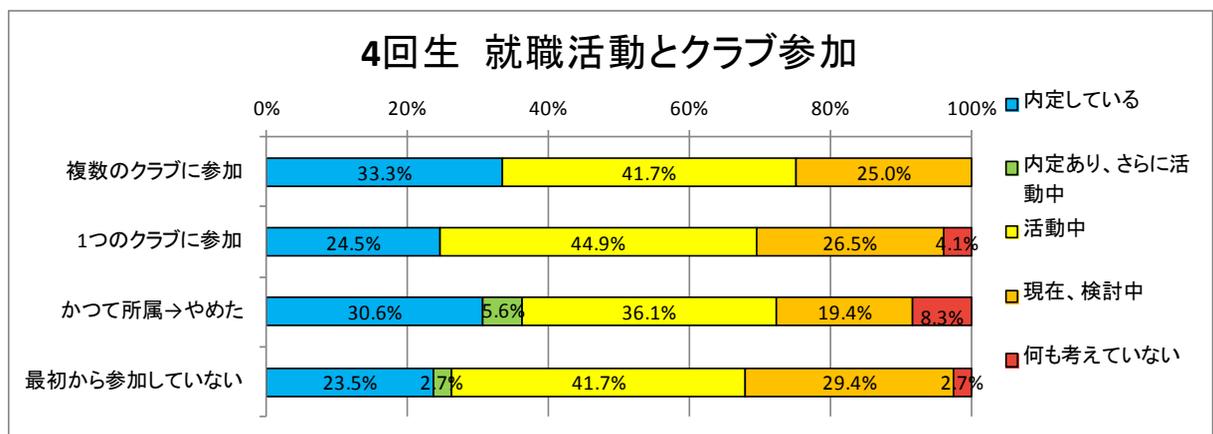
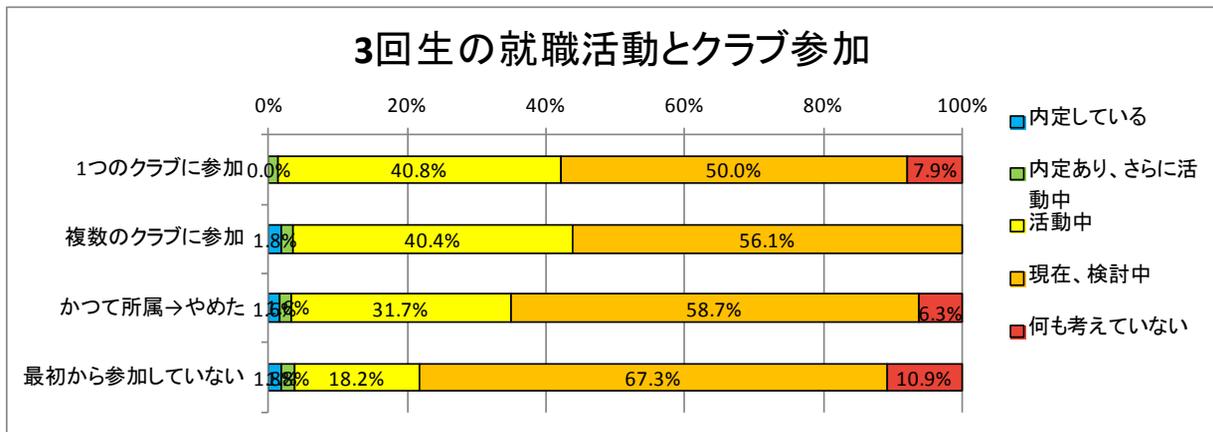
進路・就職に関して3、4回生の状況を見てみると、卒業後の進路について、検討中が多かった。調査時(平成24年12月)に、実質的にはまだ活動していないということで、3、4回生としては問題点が多い。また就職に向けた行動についても、3、4回生で特に何もしていないという回答が30%程度いることは、大変憂慮すべき点である。学生のキャリア意識・就職活動に対する意欲を高めて行くことが急務といえる。



各学科 3, 4回生の 就職活動の状況	音楽		人文		子ども発達		発達栄養	
	3回生	4回生	3回生	4回生	3回生	4回生	3回生	4回生
進路決定済み	0.0%	22.6%	1.6%	13.0%	1.8%	29.0%	1.8%	43.4%
内定ありで活動中	1.3%	0.0%	1.6%	6.5%	1.8%	0.0%	1.8%	1.9%
活動中	40.8%	39.8%	31.7%	45.7%	40.4%	46.4%	18.2%	34.0%
検討中	50.0%	33.3%	58.7%	30.4%	56.1%	20.3%	67.3%	18.9%
考えていない	7.9%	4.3%	6.3%	4.3%	0.0%	4.3%	10.9%	1.9%

現時点での就職に向けた行動	音楽		人文		子ども発達		発達栄養	
	3回生	4回生	3回生	4回生	3回生	4回生	3回生	4回生
企業説明会やセミナーに参加	19.7%	9.7%	22.2%	37.0%	14.0%	18.8%	27.3%	15.1%
インターンシップに参加	6.6%	5.4%	6.3%	6.5%	19.3%	5.8%	5.5%	1.9%
大学の学生支援センターを活用	14.5%	6.5%	36.5%	15.2%	15.8%	17.4%	30.9%	17.0%
自分独自に就職に向けて勉強	28.9%	22.6%	17.5%	23.9%	35.1%	30.4%	14.5%	17.0%
大学外のスクール(資格取得など)	6.6%	8.6%	4.8%	4.3%	7.0%	1.4%	0.0%	1.9%
特になにもしていない	48.7%	57.0%	30.2%	41.3%	49.1%	30.4%	38.2%	58.5%

また、クラブの参加状況と進路に向けた活動への関連性をみると、3年生においては、クラブに参加していない学生のほうが、進路に関して「活動中」とする学生の割合が少なく、「現在検討中」と「何も考えていない」が多くなっていることが分かった。同じく、4年生でも違いは小さくなるものの、クラブ参加者のほうが内定者が多く、活動中と何も考えていない学生が少ない傾向がみられた。

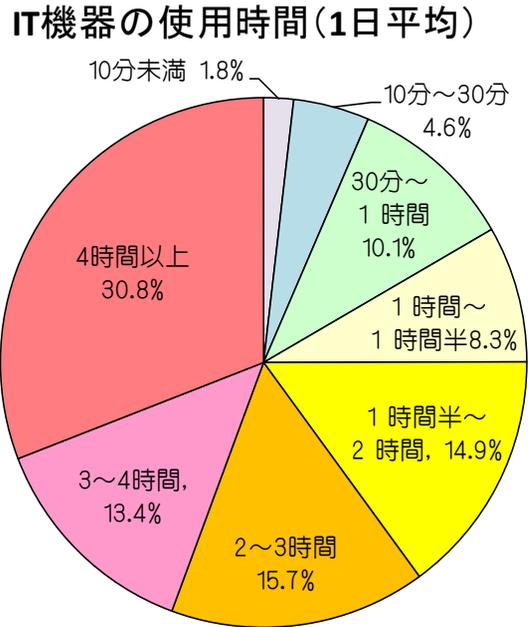
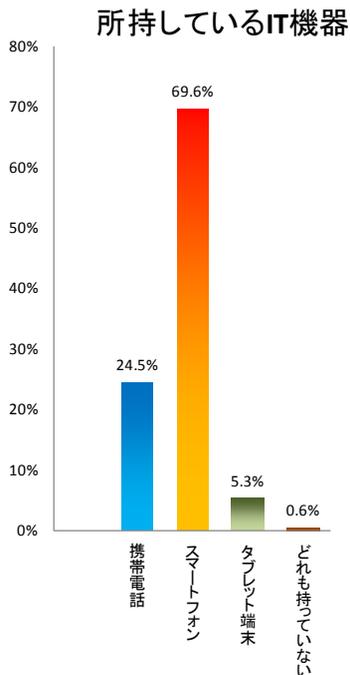


ただし就職活動の在り方は、学部によって大きな違いがある。発達栄養学科では管理栄養士の国家試験を踏まえた活動が行われ、子ども発達学科は保育士・幼稚園教諭等の独特な求人スタイルが主となっている。音楽学部でも多くの学生は将来演奏家として自立するのを目指して練習に励んでいる。卒業して直ぐに演奏家になることはチャンスに恵まれない限り不可能なことであり、多くの学生が卒業後アルバイトをしながら忍耐強く練習を続け、コンクールやオーケストラなどのオーディションを受けているのが現状である。

雇用形態については、正規雇用のみを考えている学生は全体では38.3%と、この数値は学年が上がるにつれてわずかに上昇している。就職を現実的に考えるようになり、改めて正社員志望が増すという状況がみられる。しかし同時に派遣社員やアルバイトでもよいという学生も、3、4年生で増加している。

6. IT 機器・パソコン

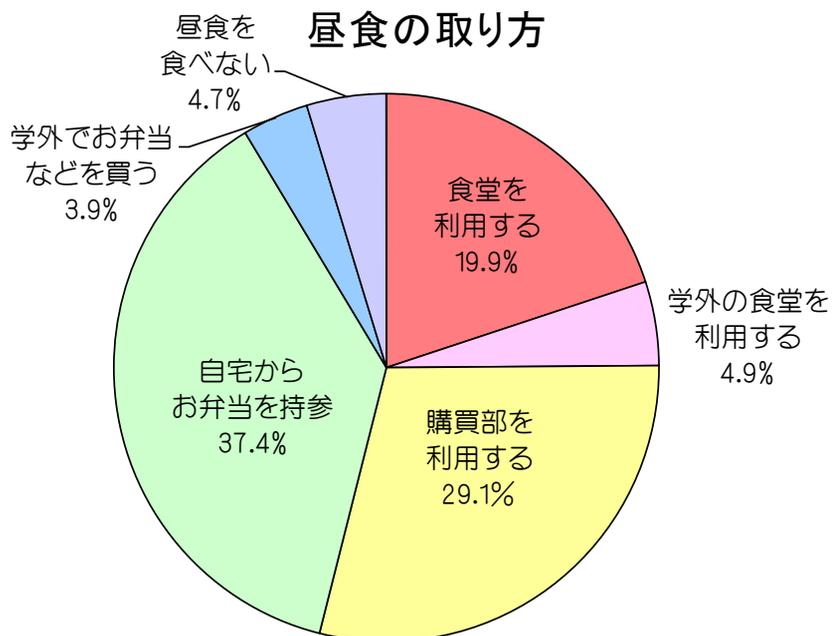
全体としては、ほとんどの学生が携帯電話・スマートフォンのどちらかを所持していることが明らかになった。特にスマートフォンの普及が進んでおり、中には携帯と2台持つ者も見られた。一方、携帯電話も20～30%の所有者がおり、タブレット端末はまだまだ少数派であった。



驚くべき状況となったのは、携帯機器を操作している時間である。一日平均の使用時間が2時間を超える学生の合計が60%を超え、4時間以上という学生も30%に達している。具体的な使用目的や連絡相手については、さらなる詳細な調査が必要となるが、おそらくSNS・WEBの閲覧・ゲームなど、勉強以外の用途が多いと考えられる。学生指導や広報について情報端末の積極的な活用するとともに、携帯電話・スマートフォンへの過度の依存防止などを念頭に置きながら、IT機器の使用と大学の学修をバランスよく進めていくことが、今後の大学教育にとって大変重要になるとと思われる。

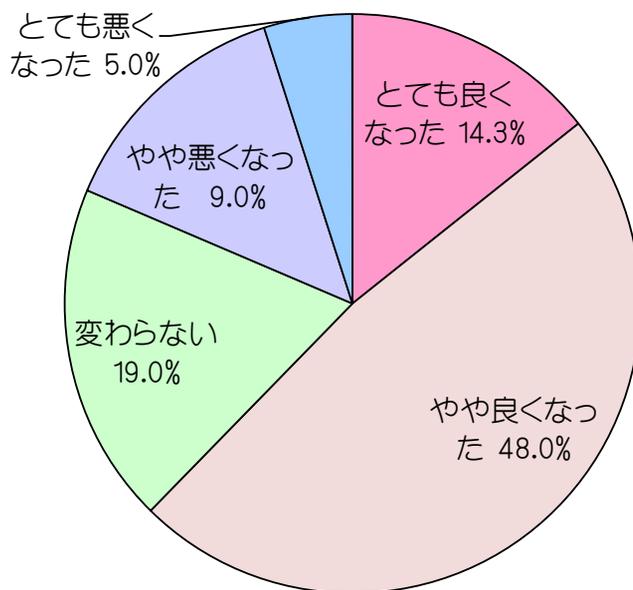
7. 食堂

昼食の取り方は「自宅からお弁当を持ってくる」学生が37.4%と最も多く、次いで「購買部を利用する」が29.1%であり、「食堂を利用する」学生は19.9%となっている。なお、4.7%の学生が「食べない」と答えている。



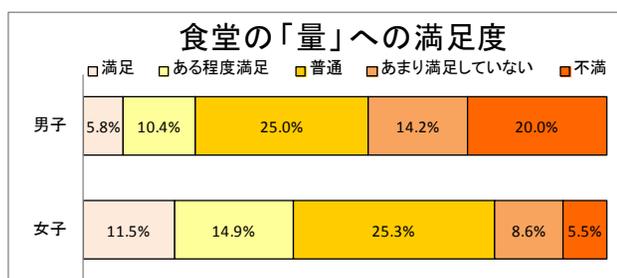
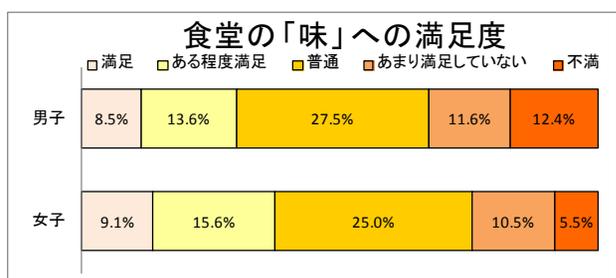
「食堂を利用しない」理由は、「お金を節約する」が31.5%と最も多く、次いで「人が多い」「味がよくない」「メニューの種類が少ない」の順である。

食堂リニューアルへの評価



調査の直前におこなった食堂のリニューアル(平成24年9月)については、「とても良くなった」「やや良くなった」と答えたプラスの評価が40%を超え、おおむね肯定的に捉えられている。

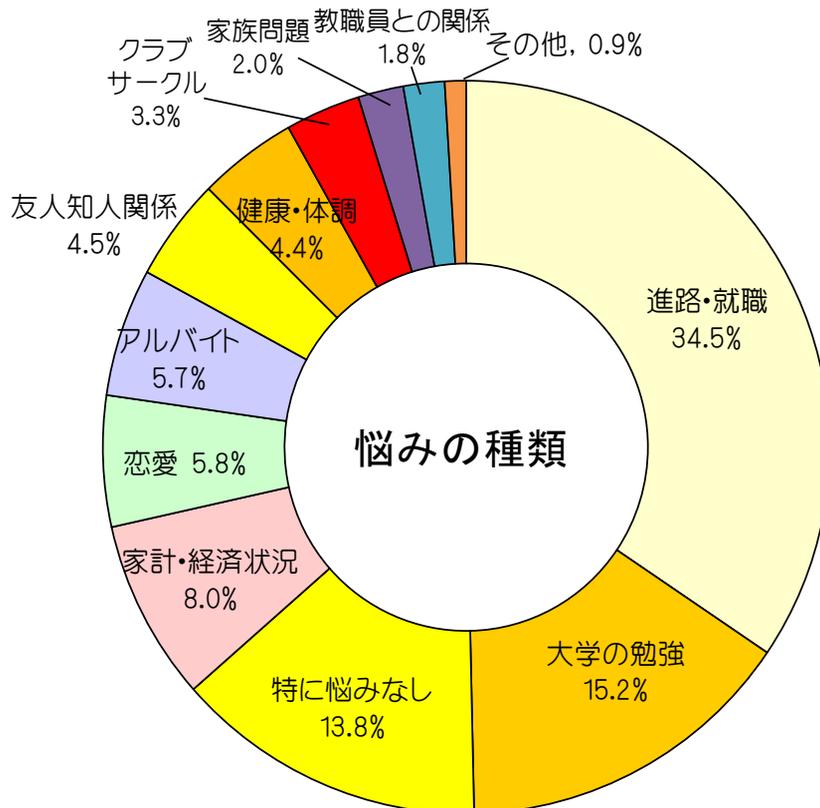
食堂全般についての満足度をみると、「満足している」「ある程度満足している」学生は、「味つけ」では24.0%、「量の多さ」では23.9%、「メニューの豊富さ」では18.1%、「待ち時間の長さ」では21.0%、「営業時間の長さ」では21.9%、「雰囲気」では18.4%であり、総合評価では19.9%である。なお、「味つけ」と「量の多さ」について男女別にみると、いずれも男子学生に不満が多いという結果が現れている。今後、より多くの学生に満足してもらえるよう検討していく必要がある。



8. 悩みと相談

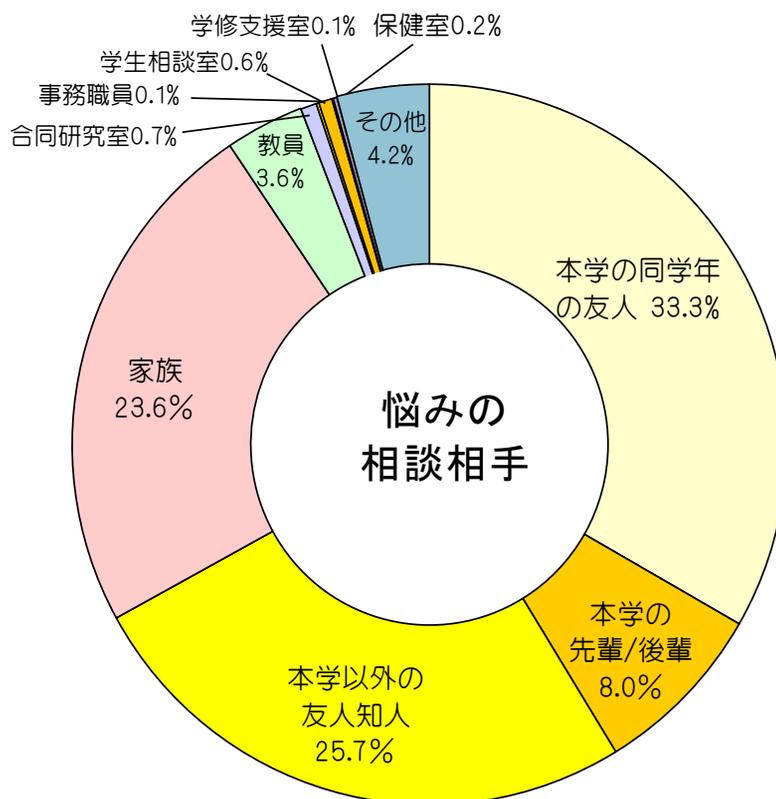
全体で見ると「進路・就職」の悩みが最も多く、次いで「大学の勉強」「家計/経済状況」と続いている。私学連盟調査では、多い順に「進路・就職」、「学業」、「友人関係」となっている。比較すると本学では、友人や恋愛の悩みが比較的少なく、進路・就職および経済状況の悩みが多めに見られている。

これらの悩みを少しでも減らしていくためには、「進路・就職」に関する就職支援や進学希望者へのフォロー、「大学の勉強」に関しての教育方法の再確認、および学修支援、「家計・経済状況」に関

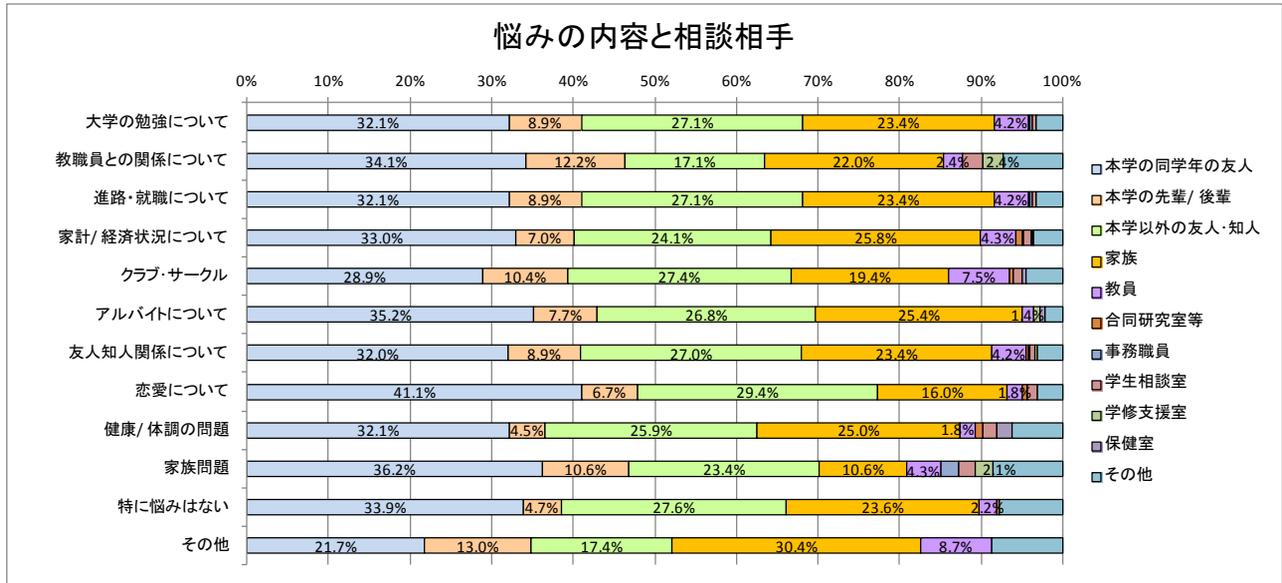


する奨学金制度の活用・告知をより充実させていく必要がある。人文学部では進路・就職に関する悩みを抱えている学生が多く見られた。

悩みの相談相手として一番多かったのが、「本学の同学年の友人」33.3%であった。次いで「学外の友人知人」25.7%、「家族」23.6%となった。本学の先輩後輩や教員は10%以下と低い値にとどまった。



悩みの内容ごとに相談相手を見ていくと、全体的には各項目で似た傾向を示していた。その中で大学の勉強や進路・就職などの教職員がサポートできそうな悩みの項目に注目してみると、大学教員や学修支援室、または事務職員・合研などが相談相手として挙がるのが少なかった。退学や不登校を少しでも減らすためにも、学修支援室や学生相談室の利用推進・ならびに教職員と学生の信頼関係作りを進めていくことが必要であろう。



9. 施設

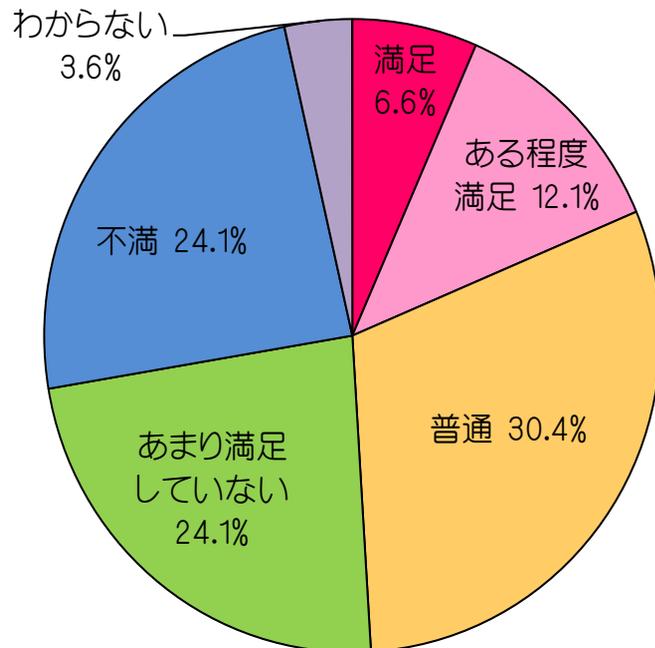
施設に関する意見で不満が多く挙げられたのが、音楽練習室であった。

音楽練習室に関して24.1%の学生が「あまり満足していない」、同じく24.1%の学生が「不満である」と結果が出た。自由記述から見てみると、特に多かったのが音楽練習室の貸出で、学生支援センターまで遠く、往復する時間ももたないという意見が多く、音楽練習室貸出の管理場所を音楽練習室の近くに移動させるなどの対策が望まれている。

そのほか、音楽練習室にもグランドピアノをという要望や、音楽練習室・レッスン室の音漏れが甚だしいという指摘が多く寄せられた。これらは対策に多額の予算が必要で、改善が進んでいない状況であるが、多くの不満があるという点を念頭に置いて学生への説明や指導を進めることが重要である。

また音楽練習室のピアノの調律ができていないという意見も多く挙げられた。学生からの調律に対する要望を受け入れる仕組みなどを作って、定期的な調律をできるだけ効果的におこなっていくことが必要と思われる。

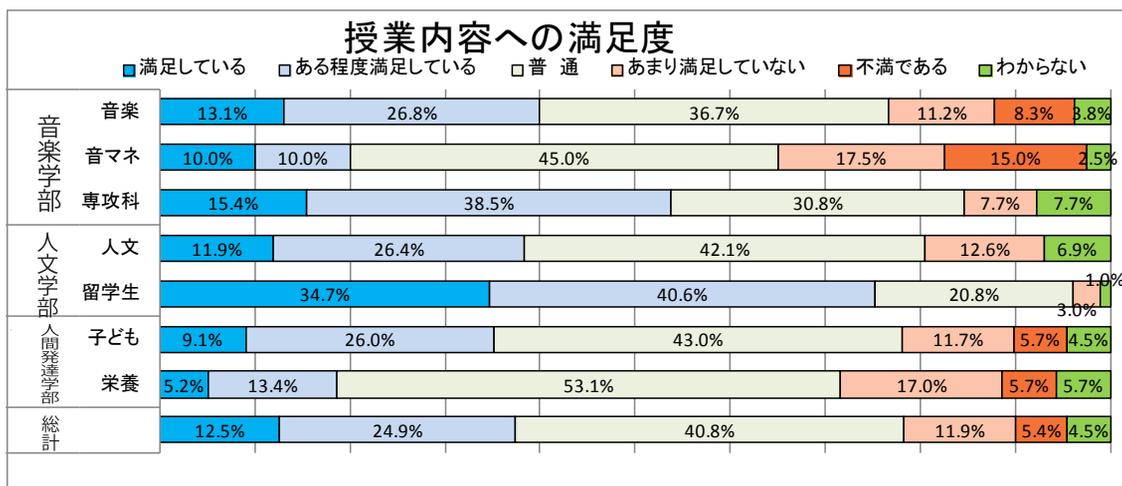
音楽練習室への満足度



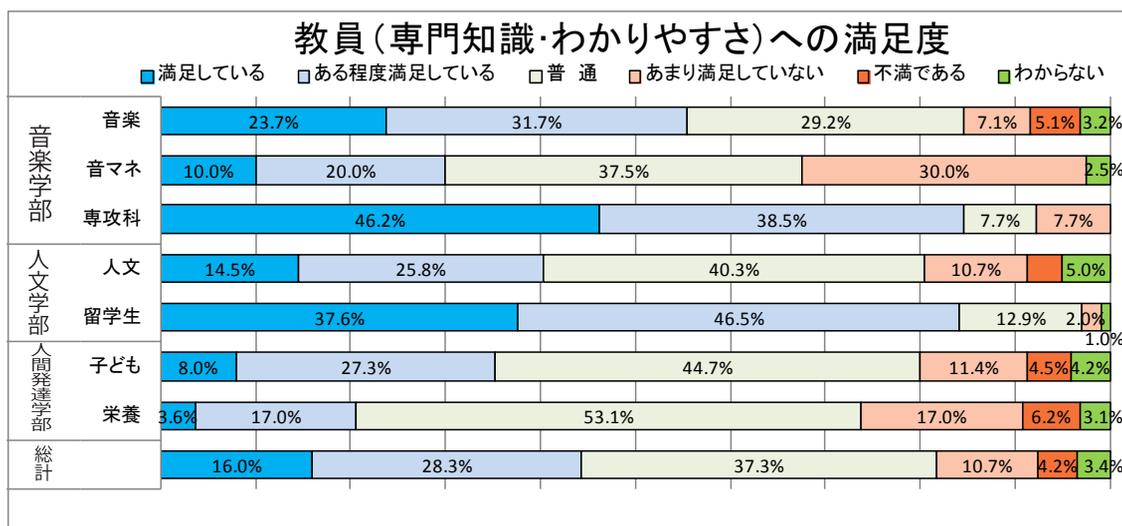
10. 大学の満足度

「授業・教育内容」に関しては、40%程度の学生がプラスの評価を回答し、同じく40%程度が「普通」と答えている。私学連盟の全国平均でもプラス評価36%となっており、本学もほぼ同程度ということがわかる。

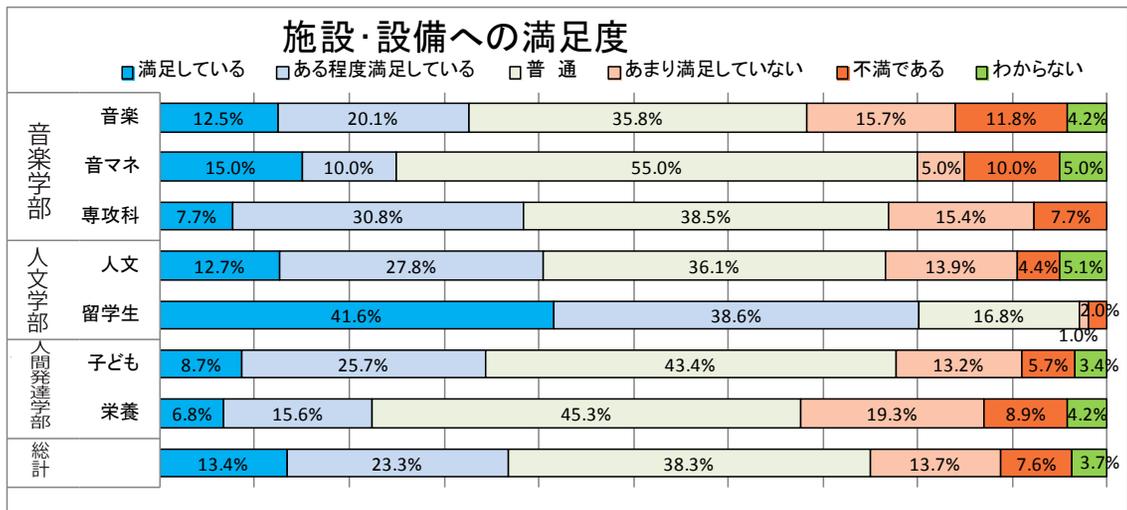
ただし、学科間での温度差がみられ、音楽マネジメント学科と発達栄養学科については、他学科と比較すると「満足」が低く、「不満」が多めという傾向がみられた。学科でのより詳しい検討をおこない、不満理由の究明と対策の検討が必要と思われる。



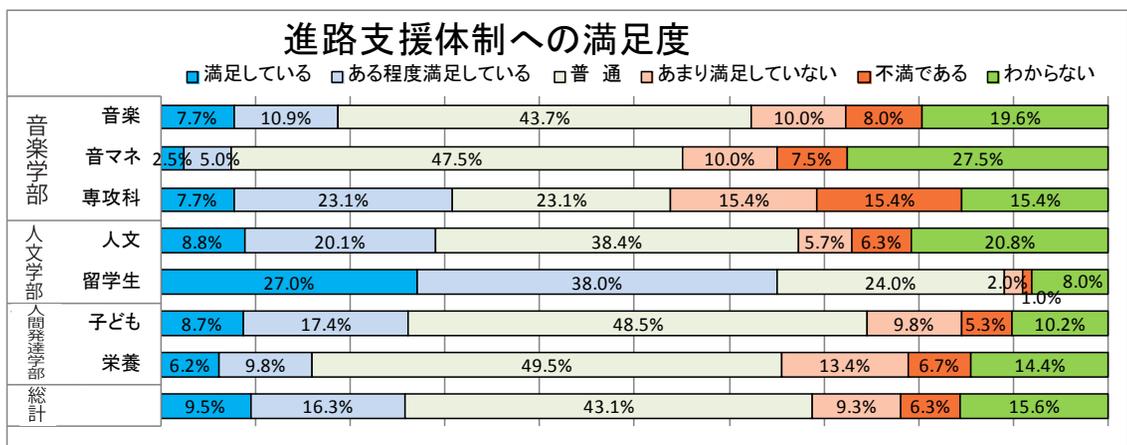
「教員」は、先の「授業・教育内容」よりも、さらに満足度が高い傾向がみられ、「満足」「ある程度満足」の合計が44.3%と半数近くになっている。全国平均では、48%が肯定的評価を与えており、ほぼ同水準となっている。また、この「教員」に関する項目でも、先の「授業・教育内容」と同じく音楽マネジメント学科・発達栄養学科で、多少の不満の増加の傾向がみられた。「教員」の項目についても学科内で不満理由の究明と対策の検討を進める必要があろう。



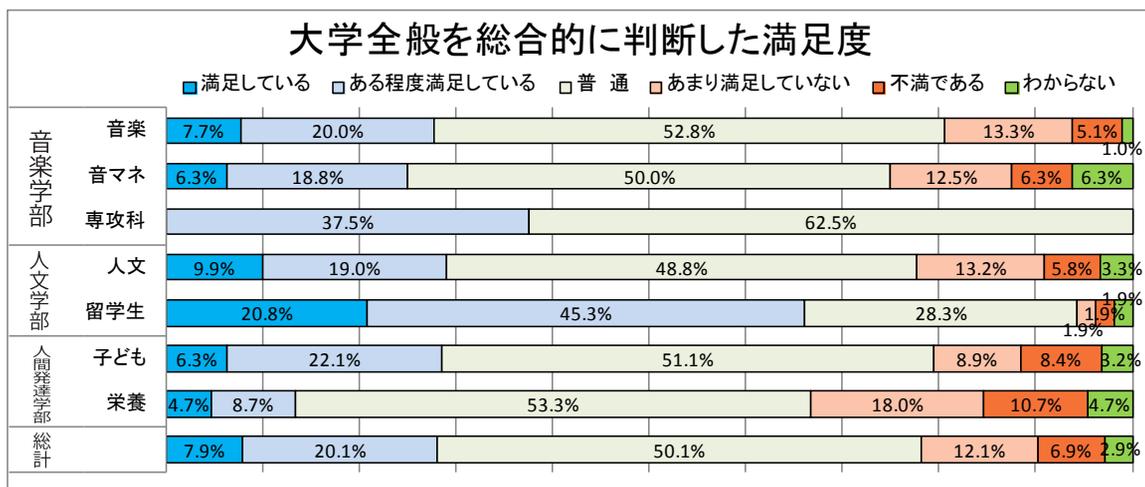
「施設・設備」面では、「満足」「ある程度満足」の合計が33.7%となっている。私学連盟の全国平均の満足度:54%に対して、30%程度と低い値である。特に音楽学部学生に、不満の声が多く見られた。



「進路・就職支援」については、「わからない」という回答が多い分、他の項目が少なくなって見えるが、「わからない」を除くと、満足度は決して高いとはいえない。



最後に「大学全般」については、授業・教育と同様に「満足」「ある程度満足」の合計が多めの傾向がみられた。「普通」という意見が半数近くあり、「満足」が不満を若干上回っているという結果になった。満足度の全体を総括すると、「ある程度満足」「普通」という回答が多く、「不満」の回答が「満足」を上回っている項目はなかった。



11. 現在、対応が進んでいる項目

アンケートの実施を受け、すでにいくつかの改善が進んでいる。以下、現在、検討・実施されている項目を記す。

- 大学内でボランティアをしたいという声が少なかったことを受け、現在、学生有志によるボランティアプラザが開設されている。これによってボランティア情報の告知や、ボランティアに関する相談受付などがおこなわれている。
- 音楽練習室に関して、管楽器の各楽器ごとにの部屋を設けてほしいという要望に関しては、学内の協議によって現在は解決されている。
- トイレの改修に関しては、本学は建築後30年を経過しているが、使用状況が良く、多くのものが使用できる状況にある。ただし和式トイレは順次変更を予定しており、使用状況を考慮しながら優先順位を決め、改修していく予定である。
- 食堂に関しては、メニューの内容や種類、価格、味等につき、定期的に検証するため、学生食堂運営会議を設立し開催した。今後、教職員と学生、ならびに必要なに応じて食堂業者を交えて意見交換し、利用者のニーズに合った学生食堂を目指していく。